クロパトキンをして殘す處なく其技倆を發揮せしむるを得たるべきなり斯くの如くにして各〻其適する所に用ゐらるれば其國に功績[illegible]り知るべからざりしなるべし

然れども此戰爭今後に尙ほ天來の指揮官を露國に現れしむるみとなきを保せず要するに戰爭に依りて其名を現すものあり我等の豫期して誤らざるを得るもの露國に過ぎたるはわらざるべし蓋し露國の如く之に其名を爲ずに容易なる國わらざるを以てなり然れども『ブルーメール』（佛國共和政時代の第二月）十八日の事を叙する其有名なる冒頭に於てナポレオンの曾て云へるが如く時としては『其現るゝ遲きに過ぐるみとあり』我等は未だ天才現れ其前に存する障碍を除かれ民みな口を齊くして『彼來たれり』を呼ぶの時に達せざるなり近世式の戰爭に成効を得んとを欲せば必然に研究と經驗とを積まざるべからざるみと自ら天來の指揮官に其出現を妨ぐるものあるは亦非實なり今日は何物を以てするも軍事教育の欠乏を補足するを得るものなし

リチヴイッチ將軍は軍隊整理の其業を初むる前に當たりて先づ其不味なる位置より脱出するの道を開かざるべからず思ふに人傑ある此老軍人みの間に處するに於て自ら其策を有するものならん彼は西比利亞軍隊の間に好評を有するものにして彼は第一滿洲軍中の大部――即ち第二、第三、第四西比利亞軍團――を戰場より救ふを得て自家と及び其兵の上に少からざる信用を繋ぐを得たり然れども彼の軍目下に於て五萬以上を算すべきや否や疑はざるべからず第二、第三兩軍に至りては全然潰亂の狀にあるべし固より云ふに勝へたる力の存するものにあらず敗餘の軍隊哈爾賓に達する上は『コラス』大公遂に其指揮を取るに至るみとあらん其時に至らばスコムリノッフ將軍之に參謀長たるべく技倆ある諸老武官より成る滿洲の軍事參議會は其儘滿洲に存續し之に其顧問たるべし既存の軍隊みの新組織に依りて果して何等の便益を受け得べきや我等未だ之を明むるみと能はず斯くの如くにして一シンヂケートに其指揮權を買占むるを失敗に歸したる以前の支配人組織よりも何等良好の結果を收め得べしとすべきや我等は之を知るみと能はざるなりウォーター　ラレーの言に曰く『指揮官は必ず之を一人に限るを以て可なりとす將多くして良果を收むるを得るみと頗る稀なり或は寧ろ絶無なりとするを得る』

## 三十八年五月十四日海戰の日露

## 戰爭批評（百八十六）

（三月廿三日軍事技術研究所論）

### クラウゼヴイッツ學說（上）

近世戰爭技術の秘訣を以て夫の智能ある學生即ち『みかど』の諸將校に授けんとしメッケルの船に搭じて日本に赴くや彼は必ず其重き行李の中にクラウゼヴイッツの諸名著を藏めたらざるべからず近世の獨逸軍事文學その多數は皆慣むに堪へたるもの〻みなれども其約一割は第一等種のものに屬せり古くはクラウゼヴイッツ、ヴイリゼン、シャルンホルスト其他數名近くはモルトケ、ヨルク　フオン　ヴアルテンブルヒ、フォン　デルゴルツー暫く其多くを列擧せざるまでも――此等の人の著は皆各將校の其熟讀を欠く能はざるものなり軍事歷史、諸名將の言行、達識家の著書、此等に精通するみとに依りて初めて戰爭技術研究の基礎に注意するを以て必要なりとす』と

（三月二十日所論究）

建てらるゝを得べし之なくしては其完全なる業決して之を遂ぐるを能はざるなり然れども斯くの如くにして得られたる戰爭及び軍事組織に關する概念を指揮し統帥する技術との間には尙ほ鴻溝の存するあり輕率なる軍人及び文官等の中に此溪唯だ一躍にして踏ゆべしと爲すものあり戰場に於て我等に軍隊を失はしめ內閣會議に於て我等に巨百萬の資を失はしめたるもの實に此等の士の爲す所なり實際に於ては此鴻溝を涉る決して容易ならず之を涉るには其研究に依りて知得せる原則を軍人は戰爭又は演習に依り文官は其行政省に於ける職任に依り實際の場合に應用して充分に之を咀嚼せんとを要す經驗の熟果收納され其人指揮の伎倆――即ち質問又は推論を經るとなくして鞍上に於てか又は机上に於てか行うて誤る所なきの天性、を有するを以て目さるゝに至るは必ず此順序を踏みたる後ならざる可らず我等の呼で大臣と爲し將軍と爲し又は參謀總長と爲すが如き名流パッラス（ジュース神その妻神を臨下してパッラス神ジュース神の頭より生れ出でたり）神の如くに産褥の苦痛を要せずして產れ出づるものなりと爲すは要するに誤りなり我等は我等の損失と我等の悔恨とを以て此應斷の作際の上に且つ軍事組織の上に絶えず災害を嘗すものなるを知曉せり我等は此等の悔恨全く上述の豫備的實習を怠りたる結果一定不變の原則を知得するに至らざりしに基くものなるを覺めざるべからず Vom Wissen zum Können ist immer ein Sprung, der Sprung aber ist vom Wissen und nicht vom Nichtwissen（知るみとより能ふみとに至るは一躍なり此一躍は又知るみとよりすべくして知らざるみとよりすべからざるなり）ヴイリゼンの言蔵に斯くの如しヴイリゼンは言を爲すに堪へたるもの〻一人なり英國將校中には無論クラウゼヴイッツを讀みたるものあるべし多數は評判に依りてのみ其名著を知るものなり世間一般の讀者には彼あるひは名よりも多くを値せざるの感あらん日本に取りては彼神ならざるべからず我等はメッケルに聞くを須ひずしてクラウゼヴイッツの千八百十二年春普魯西親王に與へたる夫の有名なる上申書に關し彼の爲したる敷衍直に非凡の言として承認され日本の研究科目中に於て之に其重要なる位置を與ふるに足ると承認されたるを信ずるを得べし

日本今日の敵さた數年前既にクラウゼヴイッツを發見したりクラウゼヴイッツ敎の全精神盡く此內にありとして我等の上述したる上申書を露國陸軍の爲めに飜譯し又之に附註したるもの唯だにドラゴミロッフ將軍あるのみにはわらざるなり斯くの如くにして我等は滿洲に於ける兩交戰者各〻其名家の言につき其研究を行ふの機會を有したるものなるを斷ずるを得べし各之より幾許の利益を得たるやを見る亦趣味なくんばわらず

問題中にある此上申書を茲に略述せんとは煩に堪へざるべし然れども滿洲に於ける其大戰鬪中一回を除くの外は日本時くリラウゼヴイッツ學說の精神に從ひ且つ殆ど文字通りに其學說を實演し同一の戰鬪を露國は全然其の學說を無視して之を行へるを以て讀者及び推考は如何ばかり一方の軍隊に利益を與へ之が傍意如何ばかり他の軍隊に其破滅を與へたるやを示すと明に其價値あるべし

戰爭技術大家の著書を以て學說の敍述なりと爲すは或は誤たるを免れざらんクラウゼヴイッツ現に戰爭は組織にわらず又一定したる學說にわらず云々との言を爲せり彼又曰く凡て斯くの如き學說と戰爭との間には必然に相反する所のものわら

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ざるべからず戰爭の實演は殆ど一切の方向に限りなく擴がるものなりと我等彼の上申書を以て學說と爲すよりも寧ろ彼の經驗の成果なりとせば却りて失れ或は其實に近きもののわらん（三十三日所論去完）

# 手八年九月十五日時事

## タイムスの日露戰爭批評（百八十七）

### クラウゼヴィッツ學說（下）

（三月二十三日所論つゞき）

先づ守勢態度につきて之を見よ記憶すべき其原則果して如何クラウゼヴィッツ云へり決して全然受動の位置に留まるみと勿れ敵その攻擊を起すの時に當たり自ら出でゝ其前面及び其側面に當たれど彼亦曰く守勢態度は其戰線あゝ長さを有する時に於て初めて之を用ふべし蓋し敵をして此戰線を攻擊せんとするには先づ其兵を展開せざるべからざらしめんが爲なり敵その兵を展開するを待ち豫備隊をして即ち攻勢を取らしむべきなりと籠城の技術は兵をして胸牆の背後に其身を衛るを得せしめんとするの意に出でたるものにあらず敵を攻擊するに於て其成効を大ならしめんが爲めなり之を要するに守勢態度は豫め選擇したる陣地に其攻擊を行はんとする手段に過ぎざるなり

クラウゼヴィッツは事の不徹底を斷じて言さいるものなり彼曰く計畫を立つるに當たりては常に何等かの著大なる目的を其前に掲げ置かざるべからず敵軍の大部分に對する其攻擊及び其全破と云ふが如き是れなりと我等もし些小なる目的を掲げて敵大なる目的を有せば是れ恰も銅に對して金を賭するに等し計畫一たび立せられば其能ふ限りの鋭氣を盡くして之を遂行せざるべからず我等もし其攻擊を加へたる翼面に於て苟も利便を得ば我等は決意を以て其利便を擴充せざるべからず即ちラチスボン及びワグラムに於けるナポレオンの如くに之を爲すべしチャールス大公の如く半その捷を得たる時に至て之に躊躇を用ふべからざるなり是を以てかクラウゼヴィッツ即ち曰く現在の戰爭技術に於て勝利の諸原因中之に第一等の位置を與ふべきものは這の原則にあり極度の鋭氣と決意とを以て著大にして且つ決勝的なる目的を遂行すべしと云ふ是れなりと

攻勢態度につきては彼論じて曰く目的は優勢なる兵力を以て敵軍の小部を攻擊し現餘は牽制して之を疑懼の狀に居らしめ或は不動の狀に居らしむるにありと彼は之を以て比較的利便を備へて其敵に壓ひ從つて味方に成効の機會を把獲する唯一の手段——若し味方の兵力敵と對等なるか或は劣勢なりとせば——なりと爲せり味方の兵弱小ならば其弱小なるに從ひ少數の兵を以て敵を牽制するの任に當たらしめ比較的多數の兵を以て決勝的攻擊を加ふるの任に當たらしめざるべからず主なる力は其前面及び側面に對して攻擊を加ふるか又は全く之を輪回して後方より之に其攻擊を加ふべき敵の翼面に對して用ひられざるべからず其退却線外に敵を驅攘するにあらざるよりは勝利に依りて大結果を收むるみと得べからざるなり全然その敵を包圍せんみとは殆ど不可能なり此行動を試みるには肉體上または心意上頗る優力ならんことを要す然れども一側面に其攻擊を加ふるみとに依りて敵を其退却線外に驅攘するみと難からず而に之に依りて偉大なる結果を收むるみとを得勝利——語を換ふれば戰場より敵を驅攘するの間なり——を確にするみと或は勝利の豫想を堅くするみと是れ何よりも先づ兵家の目的とせざるべからざる所なり作戰計畫は此結果を目的として之を立するを要す然らば決勝的なるを得ざりし勝利と雖も尚ほ追擊に其銳氣を用ふるみとに依りて之を決勝的ならしむるを得べし敵軍の翼に對しては力を集中して之に其攻擊を加ふべし即ち各面より之に襲擊を行ふを得んが爲めなり敵たとひ其方面に充分の兵を有して各方よりする攻擊に對抗するを得とするも尚ほ之に依りて之に其勇氣を沮喪せしめ大損害を負はしめ且つ之に其秩序を紊亂せしむるみとを得べし——即ち約言すれば之を敗退せしむるを得るなり

諸師團及び諸軍團をして其攻擊を同時に行はしめんとするは一地點より之を指揮するみとに依りて其目的達せらるべきにあらず又之に命ずるに其相隔つる距離如何なるに關せず若しくは敵その間を遮斷するみとあるに關せず常に其接觸を保持すべきを以てするを以て足れりとすべからず一隊の行進を他の隊の行進に依りて決して左右せしむべからざるなり此力注に依りて行動すべきを軍隊に命ずるは機方何となれば之に依り敵をして其兵を展を等しくして其行動を執らしめんとする目的を達するみと最も難き道なり斯くの如くんば自ら巨多不測の變に接するみとあるべく大結果を之より收めんみと到底不可能にして必ず敵に味方を打壞せしむるに至らんクラウゼヴィッツ曰く之が成の方法は各師團長又は軍團長に其行進の一般方向を示し且つ其目的物として之に其敵を示し其企圖とする所勝利にあるを示すにありと是を以てか各縱隊の司令官は其何れにあるに關せず得るに從ひて敵に其全兵力を以てする攻擊を加ふべきを以て命ぜらるべし然れども失敗の責任をして決して縱隊の指揮官に落下せしむべからず蓋し爲めに之をして不決斷に陷らしむるの憂あるを以てなり各縱隊の指揮官には當に唯一の責任あらしむべし即ち其指揮する隊の全兵力を以て戰鬪に加はらしめ如何なる犧牲も之を躊躇せざるべきみと是れなり編成その宜しきを得たる獨立縱隊は一時の間よく其優勢なる敵に抗するを得て決して直に潰破せざるものなり時機早きに失したる其攻擊又は不成効に終はりたる其攻擊と雖も一般方略の上より見て決して無用なるにあらず何となれば之に依り敵をして其兵を展開せしめ之が攻擊に對抗するを爲すものにして我等は又その獨逸政策を指導するものにあらざるやを疑ふものなく同時に其力を傾け來たらざるを得ざらしめ以て味方に有利なる狀態の下に其他の地點に於て之に其襲擊を加ふるを得せしむるを以てなり

尚ほクラウゼヴィッツの全力を盡くして論述したる所にして而も普魯西親王に充分の敎化を與ふるみとを得ざりし一原則あり決して一時に其兵力を盡くして賭するみと勿れ斯くの如くんば遂に之を指揮する其力を喪失するに至るべし唯だ弱小の兵力を以て到る處に敵を忙殺し之を疲勞せしめ最後の決勝期に至るまで其決勝的大部隊を保存せよ此大部隊既に一たび用ひらるゝに至らば極度の決意と膽略とを以て之を動かせといふ是れなり

戰場用兵の此等の大準則いま尚ほ之を回想するの價値あり蓋し其殆ど百年前に書かれたる所にして之が大部分はナポレオンの歐洲に拔けたる苦き敎訓の結果に成るものなりと雖も尚ほ我等の以上摘舉したる所は一語一行みな今日の戰術に之を適用すべきものなるを以てなり寧ろ其適用當時よりも今日に於て更に劃切なるものあらずや之れ論究するの要ありとすべし此等は尚ほ獨逸戰術の基礎を爲すものにして我等は又その獨逸政策を指導するものにあらざるやを疑ふものなく同時に

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/